

多様な価値観に触れ、感じる自身の成長



組子クリエイター／四季文化館企画実行委員会

あ だち しょう ご
安達将伍さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.186

柔らかな春の日差しが桜の便りを運んできました。さくら色に染まる芝生広場は、遊び回る子どもたちや、花見をしたりお弁当をひろげて楽しそうに過ごす家族連れなどで賑わいます。今回は、四季文化館企画実行委員や小美玉さくらフェスティバルの実行委員を務める、小美玉市羽鳥にお住まいの組子クリエイター、安達将伍さん取材します。

対話の中から 得られる刺激

1935年創業。88年続く安達建具(株)の4代目である安達さんは、伝統の技を継ぐ職人として広報おみたまの取材を受けたことがきっかけで小美玉市のシティプロモーションに関わるようになり、その縁で四季文化館企画実行委員会委員に就任。

土浦工業高校卒業後、東京都神田の職業訓練校で学び、22歳の時、技能五輪で全国優勝。昨年、技能検定1級を取得し、「実績や信用のおかげで組子の仕事も増えて、楽しさと忙しさが入り交じった感じですよ」と安達さん。専門性が高い仕事をクリアするたびにハードルが高くなっていきますが、「そこを超えていくのがやりがい」と語りま

す。
茨城県産材を使った「いば

らぎ組子」は、茨城県伝統工芸品の製造者として3社が認定を受けています。「3社の中で僕が1番の若手です。だからこそ、組子を皆さんに知ってもらおうとSNSで発信しています。それもあってか、デザイナーや工務店、個人のお客様とのつながりが広がりました」。

作品製作や仕事の打ち合わせで忙しい中、みの〜れの活動に参画。「仕事では出会えない人たちとのつながりができたことが宝です。対話の中から本業に活かせるアイデアが浮かぶこともありま

す。家ではずっと組子を作っているのですが、みの〜れで多様な人たちと対話することがいい刺激になっています」と分析。

みの〜れの事業選定や運営改善を話し合う四季文化館企画実行委員の務めは「運営の深いところに関わるので、責任の重さを感じてい

ました。
(藤田佐知子)